

次期計画に対する本協議会委員のご意見等

参考資料 4

(H28. 1. 27 施策推進協議会第 4 回会合及び委員意見票で挙げたご意見)

項目	名前	内容
計画全般	諸橋委員	どうやって地域を作っていくかについてのイメージを共有するため、自分たちで考えていくための共通認識を得る場が必要ではないか。
	白江委員	地域包括という言葉ひとつをとっても共通言語になっていない。市民も交えた共通の考える場が必要ではないか。作業部会も重要だが、共通認識を作る場も考えてほしい。
作業部会のテーマ	中村委員	自己受容ができていない人の一般就労を 2 年で行うのは困難。ライフステージのなかで、学校教育と家庭教育で、就労移行ができると非常に良い。障害者施策だけではなく、学校教育との連携も必要ではないか。
	中村委員	就労だけが終着点になるのでは脅迫観念。生活介護という枠組みで、個別の性格を活かした生活をできるようにしていくべきではないか。しかし、自閉症スペクトラムの方が支援区分上生活介護に該当しないように、制度上、生活介護を選ぶことができない方もいる。ここに検討の余地があるのではないか。
	松本委員	親亡き後については、多くの人が不安に思っているところ。現行計画の重点プロジェクトでは取り上げられていないが、親の高齢化の問題を取り上げてほしい。また、知的障害のある方、特にダウン症の方は、普通の方よりも認知症の発症が高いと言われているので、本人の高齢化についても考える必要があるのではないか。
	佐々木委員	地域包括的なシステムや共生社会に関心がある。精神疾患がある方の就労支援について、現行の就労支援施設が飽和状態であり、生活困窮の総合相談窓口になっている実態がある。新しい相談窓口ができると、そこに人が行ってしまう。部会をつくる際には、障害福祉だけでなく、横断的なテーマでサポート体制を作してほしい。障害福祉だけではサポートできないのでは。
	白江委員	検討部会のテーマ 1. 権利擁護・人権・虐待防止を進めていく 2. 生きがいがづくり（スポーツ、芸術、文化等）をどう進めるか
作業部会のあり方	市川委員	部会は委員がテーマごとに分担してやるのか。専門委員も含めて考えていくのか。
	中村委員	部会は様々な分野が連携した形で作ってほしい。
他部局との関係	白江委員	他部局との協議体制はどのようになっているのか。また、他部局との調整をどのようにしていくのか。
スケジュール	白江委員	協議会と部会とのやりとりはどのようなスケジュールで考えているのか。